謝　辞
序
第1章　エイブリー教授とロックフェラー研究所……一
活動的な研究所……一
科学の場……三
天才たちの拠点……一〇
第2章　臨床医学から基礎医学へ……一六
アメリカにおける基礎医学の黎明……一六
ロックフェラー医学研究所……二八
ロックフェラー病院……三八
研究所から大学へ……四四
第3章　医学の化学的研究……五一
研究所創設期における化学的研究……五一
医学研究のための化学……五六

生命の化学的見方……五八
学際的思考……六六
第4章　エイブリーの生涯……七〇
その生涯と研究……七〇
家族のこと……七四
コルゲート時代……八六
医学の修行……九二
ロックフェラー医学研究所の生活……一〇二
ナッシュビルでの暮し……一〇八
第5章　研究室の生活……一二三
研究の心……一二三
頭脳を摘む……一二八
完璧実験主義……一三八
文章を書く……一三四

赤ラベルのレコード……一三八
第6章　多領域での専門家……一四三
第7章　発育拮抗性免疫と宿主の化学……一四九
発育拮抗性免疫……一四九
細菌の代謝と感染……一五五
宿主の化学……一五八
宿主と細菌の相互関係……一六一
第8章　生物学的特異性の化学的基礎……一六四
抗肺炎血清……一六四
特異的可溶性物質……一六八
おが屑と卵白でつくる免疫……一七六
生物学的特異性……一七九
第9章　病原性の複雑さ……一八四
自然および実験モデルにおける病原性……一八四

莢膜と病原性……一九〇
菌体と病原性……一九五
第10章　細菌の変異性……二〇一
多形説と単形説……二〇一
表現型の適応と遺伝的変異……二〇四
細菌の変異性について……二〇八
肺炎双球菌の形質変換……二一二
第11章　遺伝とDNA……二一三
形質転換物質とDNA……二一三
科学におけるピューリタニズム……二一四
早すぎた発見……二五一
第12章　思い出すままに……二六〇
穏やかな態度と芯の強さ……二六〇
エイブリー教授の人柄……二六三

語られざる科学観……二七三
独創性と創造性……二八一
芸術としての実験科学……二八六
後記……二九一
エイブリーの履歴……二九四
訳者あとがき……二九九
文献……1